

うゝと考ふるは大物主神ハ大己貴命の御子と凡此御神
神代より武さ御神はありくく彼所は云日本書紀は
出づ於天事代於虚事代と申なりしも此御神等此
御事より平家物語より此事とも傳へく流るる
事と志する依て武猛の神にまゝゆせば或人の云説も
據なきはあゝざるべし此集の末は吉備津御神の贄
鷹の事をもめを此事詳あり孫と是も神功皇后の
御巻は吉備臣祖鴨別と云人をつくり孫ひて熊襲に
國をうゝせ給ふるもあかざるより中むるの頃
あでハ五六百年今の書はあゝぬとるくの傳へるを世の人も